

# 主体的に学ぶ学習活動の工夫を取り入れた英語科学習指導案

日 時 平成21年10月29日(木) 5校時  
学 級 3年3組男子17名女子18名計35名  
授業者 八重樫 千晶

1 単元名 Unit 5 Cell Phones – For or Against?  
(東書 New Horizon English Course Book 3)

2 単元について

(1) 教材について

Unit 5では、電話の歴史から始まり、携帯電話の使用をめぐる議論を題材として取り上げている。博物館の電話歴史コーナーで、ガイドが昔の電話を示しながら、その変遷を導入部分で説明する。また、携帯電話を使って長電話する主人公マイクに、母が苦情を言う。そのことがきっかけとなり、マイクがインターネット上の掲示板で問いかけた中学生の携帯電話の是非について、さまざまな意見が交換される内容である。

学習指導要領では、「言語の使用場面」の例として、「賛成する」、「反対する」、「理由を述べる」が挙げられているが、本単元の題材もそれに該当する場面設定である。生徒は以前にも、修学旅行など身近な話題を題材に「意見や感想を述べる」言語活動に取り組んできた。本単元学習において、生徒は中学生における携帯電話の必要性や使用する際のルールにおいて理解を深めることができるとともに、今や、身近なコミュニケーション手段として浸透している携帯電話を取り巻く社会問題について、教科書モデルを基にして、賛成か反対か自分の立場を明らかにして、理由を述べることができる。さらに、これ以降の学習、Book 3、Writing Plus 2では、発言の型を話題を変えて練習することができる。

また、本単元で扱う文法事項は、現在分詞及び過去分詞による後置修飾と間接疑問文を取り扱う。特に、後置修飾は日本語にない形であり、学習指導要領では、「言語材料の取り扱い」の中で「語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること」が追加されていることを踏まえた指導が必要であり、いずれの場合も修飾する語との意味の関係をおさえた指導が重要であるとしている。このような文構造を生徒は容易には理解できないものと思われる。そこで、英語の語順と日本語の語順の違いを意識させながら学習を進めていきたい。また、後置修飾については、Unit 6の接触節、関係代名詞の導入まで一連のものとして指導していきたいと考えている。

(2) 生徒について

本学級の生徒は、英語に対して苦手意識をもっている生徒が多く、学習に遅れがちな生徒が数名いる。しかし、男女問わず、誰とでもペアワークができる集団であり、積極的に発言しようとする生徒が男子に多い。課題に対する取り組みに対しては、苦手意識はあるものの、なんとか決められた時間内にやり遂げようとしている。

昨年度から、基礎・基本の確実な定着を図るために、文型ドリルと家庭学習をリンクさせたディクテーションを授業の中で行っているが、どの生徒も意欲的にディクテーションに取り組んでいる。また、家庭学習における文型ドリルの復習状況も良い。

今年4月に実施したNRTの結果によれば、本学級における英語の偏差平均(M)は、全体が49.4、男子49.5、女子49.3であり、標準偏差(SD)は、全体が8.6、男子9.3、女子7.8という結果であった。また、学級全体を5段階に区分した場合、段階5が0人、4が11人(33%)、3が13人(39%)、2が6人(18%)、1が3人(9%)であった。領域別に見ると、「読むこと」の全国平均正答率66.7に対して、学級平均正答率67.3と若干数値が高かった。

(3) 指導・支援について

本校の研究主題「生徒が主体的に学ぶ学習活動の工夫はどうあればよいかー基礎・基本の確実な定着のためにー」にせまるために英語科では、以下の点に留意しながら指導を進めていく。

ア 基本的な表現を確実に習得させる。

本単元で学習する後置修飾と間接疑問文を文法的な説明だけに偏ることなく、実際の「使用場面」を意識させながら口頭で導入を図る。そのことにより、課題に取り組む意欲を喚起すると同時に、口頭練習に時間をかけながら基礎・基本の定着を確実にしていきたい。

イ 習得した知識を生かして、自分なりの言葉で表現させる。

教科書モデルや文型ドリルをもとに、自分の力で表現しなければならない課題を生徒の実態に合わせて設定する。

ウ 学習の達成の状況を数値化し、継続的に自己評価させ、達成感を持たせる。

「書くこと」の能力の育成と定着を促すために、文型ドリルを使用した家庭学習サイクルを継続し、授業の中で3文ディクテーションを行う。それにより、具体的に自分自身がどのように成長できたのかを小単元ごとに味わわせる。

本単元では、「話すこと」と「書くこと」の表現の能力を高めていくことに焦点をあてて指導を進めていきたい。

3 単元の目標

- (1) 身近な社会問題について、自分なりの言葉で、賛成や反対の立場を明らかにし、その理由を述べようとする態度を養う。 **【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】**
- (2) 過去分詞と現在分詞を含んだ後置修飾の表現を用いて自分の周りの人の状況や物について伝えることができる。 **【表現の能力】**
- (3) 過去分詞と現在分詞を含んだ後置修飾と間接疑問文の表現を用いて伝えられた事実や意見などの内容を理解することができる。 **【理解の能力】**
- (4) 過去分詞と現在分詞を含んだ後置修飾と間接疑問文の意味・用法を理解することができる。 **【言語や文化についての知識・理解】**

4 指導計画

- (1) Starting Out . . . . . 1. 5時間 (本時 1/1. 5)
- (2) Dialog . . . . . 1時間
- (3) Reading for Communication . . . 2時間
- (4) Writing Plus 2 . . . . . 1時間
- (5) まとめと練習 . . . . . 1時間

5 単元の評価規準

<b>【コミュニケーションへの意欲・関心・態度】</b>	<b>【表現の能力】</b>	<b>【理解の能力】</b>	<b>【言語や文化の知識・理解】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語活動に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・ 身近な社会問題について、賛成、反対の立場を明らかにし、その理由を正しく述べようすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去分詞と現在分詞を用いた後置修飾の表現を用いて自分の周りの人の状況や物について正しく伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去分詞と現在分詞を含んだ後置修飾を間接疑問文の表現を用いて伝えられた事実や意見などの内容を理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去分詞と現在分詞を含んだ後置修飾と間接疑問文の形・意味・用法を正しく理解している。</li> </ul>

6 本時について

(1) 目標

ア 過去分詞及び現在分詞による後置修飾の文構造を理解することができる。

【言語や文化の知識・理解】

イ 過去分詞及び現在分詞の後置修飾を用いて人の状況や物について説明する文をつくること  
 ができる。 【表現の能力】

(2) 手だてを入れた指導・支援の構想

本校では、「学習五訓」を取り入れた指導過程を通して、主体的に学ぶ生徒の育成を目指している。

具体的な展開としては、授業前には、学習用具の準備を整えて本時の授業への心構えを持たせ「ベル席を守る」、導入段階では、本の紹介や身近な人についての説明を通して、学習課題を提示する。展開では、生徒の実態に合わせて、過去分詞と現在分詞を含んだ後置修飾の文を口頭で練習し、言語活動で使用する言語材料の知識を持たせ「集中して聞く」、「自分で考える」ことを中心に、過去分詞と現在分詞を含んだ後置修飾の文を作らせる。

また、ペアワークやグループワークで発表する「わかる、できる、認め合う」ことで課題解決にせまりたい。

(3) 具体的評価規準

領域	A: 十分満足できる	B: おおむね満足	C: 努力を要する	評価の方法
話すこと	後置修飾の文構造について正しく理解して、英語を話している。	後置修飾の文構造についてほぼ正しく理解して英語を話している。	後置修飾の文構造について指導する。	[練習や発表の様子] ペアワークやグループワークで練習や発表をする場面
書くこと	後置修飾の文構造について正しく理解して、自分の表現として英語を書いている。	後置修飾の文構造についてほぼ正しく理解して英語を書いている。	過去分詞や現在分詞について指導する。	[記述内容] ワークシートへの記述をする場面

(4) 展開

段階	学習指導と学習五訓	生徒の活動	指導・支援の方法・留意点
授業前	<b>「ベル席を守る」</b>	◎学習用具を準備する	※学習環境の整備
導入 10分	1 既習事項の復習と定着  2 本時学習課題の確認 <b>「集中して聞く」</b>	◎ディクテーションを通して、「書くこと」に対する抵抗感を軽減し、基礎・基本の定着を図る。 ◎具体物がどんなものなのかを理解する。	※ディクテーションに主体的に取り組ませる。  ※学習課題を確認するとともに、本時の学習活動をおおまかにつかませる。
展開 35分	過去分詞や ing 形を使って、後ろから詳しく説明する文を作ろう		
	3 過去分詞を用いた後置修飾の文を学習する <b>「自分で考える」</b>	◎過去分詞を用いた後置修飾の文の意味と文構造を理解する。(始めに過去分詞を用いた後置修飾を導入し、その後で ing 形を用いた後置修飾の文を導入する)	※後置修飾の文の構造を指導し、その上で、それらを用いてグループで発表することを課題として提示する。
	4 学習課題を追求する <b>「自分で考える」</b>	◎口頭練習をする	※英語と日本語の語順の違いを意識させる。 ※ペア学習 ※文を書く際に必要な語を補充して、表現したい意欲を満足させる。
	5 自分が作った文を発表する <b>「進んで発表する」</b> <b>「わかる、できる、認め合う」</b>	◎あらかじめ用意してきたものについての文を考えて書く ◎自分が用意してきたものについて、過去分詞を用いた後置修飾の文を使い発表する。	※ペアごとに前に出てきて発表させる。
	6 ing 形を用いた後置修飾の文を学習する <b>「自分で考える」</b>	◎動作をしている人物の映像を見て、ing 形を用いた後置修飾を導入し、口頭で練習する。	※過去分詞を用いた後置修飾の文がわかった段階で、ing 形を用いた後置修飾について説明する。
開 5分	7 自分が作った文を発表する <b>「進んで発表する」</b> <b>「わかる、できる、認め合う」</b>	◎グループになり、動作をしている人の状況について、ing 形を用いた文を使って表現する。	※グループごとに前に出てきて発表させる。  ※学習シートに記入させる。
	8 自己評価をする		
終末 5分	9 本時の学習のまとめをする 10 次時の内容を確認する	◎後置修飾の文について確認をする ◎CD で教科書 p 5 0 を聞く	※学習シートに記入させる。 ※学習内容を振り返らせながら CD を聞かせる。

(5) 評価

ア 過去分詞及び現在分詞による後置修飾の文についての基本的な知識を身につけることができたか。

【言語や文化の知識・理解】

イ 過去分詞及び現在分詞による後置修飾を用いて文を書くことができたか。 【表現の能力】

(6) 板書計画

〈学習課題〉

過去分詞や **ing** 形を使って後ろから詳しく説明する文をつくろう

This is **a pen** **made in Japan**.

**The man** **playing baseball** is ○○.

This is **a picture** **taken about two years ago**.

**The girl** **singing a song** is ○○.

英語は、2語以上で名詞を修飾するときは、後ろから修飾する

(ペア練習のスキット)

(グループ練習のスキット)

(生徒が考えたスキット)

(生徒が考えたスキット)